第５回原子力委員会
資　料　第　２　号

第４回原子力委員会定例会議議事録（案）

１．日　時　　２００５年２月１日（火）１０：３０～１０：５５

２．場　所　　中央合同庁舎第４号館７階 共用７４３会議室

３．出席者　　近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員
内閣府
戸谷参事官、後藤企画官、森本企画官、犬塚参事官補佐

４．議　題
（１）前回議事録の確認
（２）新計画策定会議国際問題検討ワーキンググループの設置について
（３）平成１７年度原子力関係予算案について（内閣府、外務省、総務省、国土交通省、農林水産省）
（４）その他

５．配布資料
資料１　　新計画策定会議国際問題検討ワーキンググループ（ＷＧ）の設置について（案）
資料２　　平成１７年度原子力関係予算案について（内閣府、外務省、総務省、国土交通省、農林水産省）
資料３　　第３回原子力委員会定例会議議事録（案）
資料４　　原子力委員会　新計画策定会議（第１８回）の開催について

６．審議事項
（１）前回議事録の確認

事務局作成の資料３の第３回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。

（２）新計画策定会議国際問題検討ワーキンググループの設置について

標記の件について、戸谷参事官より資料１に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

（近藤委員長）４．の「小委員会」を「会合」に修正すること。
（木元委員）２月から４月まで月１回程度開催するとあるので、回数が少ないと思われるかもしれないが。
（近藤委員長）「程度」とあるように月２回開催することもあると思うが、原子力委員も含めるとワーキンググループとしてはやや多めの人数であり、あまり回数は重ねられないので、効率的に審議をしていただきたいと考えている。
（木元委員）原子力委員は議事に参加できるということだが、新計画策定会議委員には希望に応じて傍聴していただくのか。
（近藤委員長）そのとおりである。
（齋藤委員長代理）大きな検討内容を３点挙げているが、回数が少ないので、これらをどこまで詳細に議論するか、例えば、ＧＥＮ－ＩＶ（第４世代原子力システム計画）をどこまで議論するか等が問題であると思うが、基本的には、大局的見地から国としての基本的な姿勢、方針をまとめていただきたいと思う。これはワーキンググループのメンバーにおまかせすることになるかと思う。
（近藤委員長）原子力委員会の仕事は基本方針を議論することであるので、座長に仕切っていただくのが適当であると思う。
（齋藤委員長代理）複数の関係省庁をうまくコーディネートしていただくことも大事であると思う。
（木元委員）第１回会合で、「ウラン濃縮や再処理等を新規に開始しようという国において、これら事業を５年間凍結する」というエルバラダイＩＡＥＡ（国際原子力機関）事務局長の提案を取り上げるのではないか。
（近藤委員長）遠藤顧問からの報告があるかもしれないが、現時点ではわからない。それから、座長は原子力委員会が決めるというスタンスでよいと思う。
（戸谷参事官）２枚目の国際問題検討ＷＧ（案）に座長を示している。
（近藤委員長）それでは、この内容に冒頭に指摘した修正を行い、委員会決定とする。

（３）平成１７年度原子力関係予算案について（内閣府、外務省、総務省、国土交通省、農林水産省）

標記の件について、犬塚参事官補佐より資料２に基づき報告があり、以下のとおり質疑応答があった。

（町委員）外務省の原子力安全関連拠出金（チェルノブイリ・シェルター基金への拠出）の要求をしたが見送られたということだが、各国の拠出状況や作業の進捗状況を示した資料をいただきたい。
（犬塚参事官補佐）後ほどご用意する。
（町委員）総額は相当大きな金額だと思うが。
（犬塚参事官補佐）我が国だけでも５５００万ドルの拠出を予定しており、すでに約４２５０万ドル拠出している。残り約１２５０万ドルを拠出するべく、引き続き要求していく。
（木元委員）原子力委員会の施策、「原子力委員会における政策企画力、情報受信・発信力の強化」は大変大きな命題であり、我々はこれを実行する責任があると思う。もう少し具体的に説明していただきたい。
（犬塚参事官補佐）１－６ページ、６．施策内容に説明されており、大きく分けて２点ある。１点目だが、昨今のトラブル等を契機に、原子力政策について更なる説明責任を果たすべき状況となっており、原子力委員会にも一層国民にわかりやすい原子力政策が求められ、定性的な説明だけでなく、幅広い知見のもと、定量的な調査・分析を加味した、より具体的な資料の提示が求められている。従って、原子力分野に限らず専門的知識、経験を豊富に有し、また有識者特有のネットワークを通じた情報収集・解析力に優れた専門家による調査・分析等を実施し、政策企画力の強化を図る。２点目は、広聴・広報活動の一環であり、テレビ会議システムを用いて２つの会場を同時接続したり、インターネットを通じて会議をリアルタイム中継するといった、双方向型の会議開催形態を取り入れ、情報受信・発信力の強化を図る。具体的な進め方については、原子力委員の先生方とさらに相談させていただく。
（前田委員）外部の専門家を活用して原子力委員会の政策企画力を強化するとのことだが、原子力委員会のスタッフを増員することは考えていないのか。
（犬塚参事官補佐）具体的な実施の方策については今後検討するが、現在の

ところは専門家の方々への謝金を準備することを考えており、外部の専門家の協力を得ながら、政策企画力の強化を図りたいと考えている。

（木元委員）これまであまりやらなかったが、今後は、例えばご意見を伺うためにアンケートを実施するなど、専門家の方々にご協力いただいて主体的に調査をしていくという意思表示と考えてよいか。

（犬塚参事官補佐）そのとおりである。

（近藤委員長）これは政府予算案で、決められたもののご報告。具体的な進め方については、国会で承認された後に議論するのがよいと思う。ただこれは、１－３ページの予算表の（ｃ）、（ｄ）を減額して（ｉ）の「原子力委員会における政策企画力、情報受信・発信力の強化」を増額したと読めるところ、１８年度に（ｉ）が無くなった場合に（ｃ）、（ｄ）が復活する保証はないことから、来年度予算にはまた新たな取組が必要になることに注意したい。

（犬塚参事官補佐）その意味で、今回の予算要求に当たっては、抜本的に必要性を見直し要求した。今後必要となる原子力委員会の予算の形を新たに組み替えたということである。

（齋藤委員長代理）予算テクニックとしては、従来の項目の予算を削減しても新しい項目を認めて貰うのはなかなか難しいところ、よくやっていただいたと思う。

（近藤委員長）１７年度予算についてはよくやっていただいたが、次年度予算も覚悟して頑張らなくてはならない。

（戸谷参事官）実績をきちんと示して継続的に予算を獲得していくということである。

（木元委員）そのとおりであり、「原子力委員会における政策企画力、情報受信・発信力の強化」は継続的に実施すべき施策である。

（４）その他

・事務局より、２月８日（火）に次回定例会議が開催される旨、報告があった。

・事務局より、２月１０日（木）に原子力委員会　第１８回新計画策定会議が開催される旨、報告があった。